

サンクゼール栽培のシャルドネ搾汁後果実の有用成分活用 保湿原料として化粧品素材へ

「久世福商店」、「St. Cousair（サンクゼール）」などの専門店を全国に115店舗以上展開している、食品製造小売企業（食品SPA）の株式会社サンクゼール（本社：長野県飯綱町/代表取締役社長：久世良三）は、化粧品原料メーカーの一丸ファルコス株式会社（本社：岐阜県本巣市/代表取締役社長：安藤芳彦）と共同研究し、自社で栽培しているワイン用ぶどうのシャルドネ搾汁後果実を化粧品素材として開発しました。2017年9月19日（火）より一丸ファルコス株式会社より発売を開始します。



サンクゼールのぶどう栽培とシャルドネ果実有効性の研究経緯



サンクゼールでは、1989年から約10haの大入ぶどう園（長野県飯綱町）でワイン用ぶどうシャルドネを栽培し、翌1990年からワイン製造を行っています。自社畑のシャルドネを使ったワインは、2001年スロベニアで開催されたリュブリアナ国際ワインコンテストにて、

「1997 St. Cousair Chardonnay（サンクゼールシャルドネ）」で金賞受賞、以来、数多くの国際ワインコンクールで受賞しています。「おいしいワインはおいしいぶどう作りから」の考えの元、試行錯誤しながら丁寧に栽培を続けてまいりました。

一方で、サンクゼールではシャルドネ果実の有効性について、長年に渡って国内の大学研究室と一丸ファルコス株式会社と共同で研究を重ねてきました。そしてこの度、シャルドネ果実に皮膚の保湿や肌荒れをケアする効果を見出し、化粧品素材としてぶどう果実エキス「クロノシャルディ」を販売する運びとなりました。

皮膚遺伝子概日リズム（体内時計）とシャルドネ果実有効性

仕事やプライベートなどの理由から、就寝時間が遅く睡眠時間が短いなど、生活リズムの乱れは肌トラブルの原因とも言われています。皮膚機能にも体内時計のようにリズムがあり、肌の保湿をもたらす昼の遺伝子と、バリア回復を行う夜の遺伝子があり、この2つの遺伝子が規則正しく発現することで肌水分量などが適切に保たれています。ところが生活リズムが乱れると、時計遺伝子が正常に機能せず、結果として皮膚機能の低下をもたらすことが分かっています。この度の研究で、シャルドネ果実には皮膚での遺伝子発現における概日リズム（体内時計）を高めて調える作用があること分かりました。この研究結果を応用し、サンクゼールのシャルドネ搾汁後果実より機能性成分を抽出した保湿用化粧品原料「クロノシャルディ」を開発しました。

ご多用中とは存じますが、ご取材賜りますように宜しくお願い申し上げます。